

発行所
石川県保険医協会
 〒920-0902 金沢市尾張町2丁目8番23号
 太陽生命金沢ビル8階
 ☎(076)222-5373番 FAX(076)231-5156番
 URL <http://ishikawahokeni.jp/>
 編集部E-mail ; iskw_sugino@doc-net.or.jp
 発行人 西田直巳
 印刷所 ソノタ印刷株式会社
 購読料 1年間 5,000円(〒共)
 (*本紙の購読料は会費に含まれます)

石川保険医新聞

主な記事

- 2面 歯科講演会・勉強会の案内
- 3面 グループ保険普及開始
- 4面 ザ・公衆衛生
- 5面 投稿・ベトナム訪問記
- 6面 保団連医療研究会案内
- 8面 新シリーズ・近江町

今月の会員数 / 1,031人(医科730人・歯科301人)



389人が参加した金沢会場 (4月26日/ホテル金沢)

二〇一二年診療報酬改定に係る運用説明会が四月二十六日に金沢駅前ホテル金沢で、また二十九日に七尾市内の七尾美術館で、それぞれ三百八十九人、八十二人の参加者を集めて開催されました。冒頭、西田会長があいさつに立ち、今次改定では医療に沿って三月に開催された新



保険医協会講師団 (左から、三宅理事、工藤事務局長、小川理事、橋爪事務局長、大川理事、斎藤理事)

新点数関連情報は 全国紙・ホームページなどをご覧ください

新点数・介護報酬運用説明会で使用したテキスト『新点数・介護報酬Q&A/レセプトの記載』は、2012年4月17日現在で入手した情報に基づいて編集しており、今後、厚生労働省の告示・通知の発出で変更される可能性もあります。これ以降新たに変更等が判明したものは、逐次、全国保険医新聞で報道するほか、保団連ホームページ (<http://hodanren.doc-net.or.jp/>) 石川県保険医協会ホームページ (<http://ishikawahokeni.jp/>) を通じて会員の医療機関に周知します。

今年、春も桜は咲いた。お花見を楽しむ人も多かったようだ。寒さが長引いたので、喜びは一層であったろう。わが家の庭にも、紫花大根の花が咲いている。東日本の被災地でも花が咲き、人の心を慰めているだろう。春は本当に素晴らしい。

医科

現場の声を拾い上げ よりよい診療報酬体系を

理事 三宅 靖 (金沢市・内科)

二〇一二年診療報酬改定に係る運用説明会が四月二十六日に金沢駅前ホテル金沢で、また二十九日に七尾市内の七尾美術館で、それぞれ三百八十九人、八十二人の参加者を集めて開催されました。冒頭、西田会長があいさつに立ち、今次改定では医療に沿って三月に開催された新



七尾会場には82人が参加 (4月29日/七尾美術館)

側ではまったく点数の算定をせずに入院医療機関側で減算しない点数を算定したのちに双方の合議の上で精算してもよいという、いわばダブルスタンダードとなっており、これには釈然としない表情で説明に聞き入る姿が多く見受けられました。さらには、二年の経過措置があるとはいえ、管理栄養士の配置が入院基本料の算定要件となってしまうと、特に有床診療所では明らかに実情を無視した改定となっています。ごくわずかのプラス改定とは言いながら、今回も厳しい改定であり、また矛盾点も多々あることが明らかになりました。今後も現場の声を拾い上げて、診療報酬をよりよいものにしていく努力を続けなければならぬと痛感させられました。

東京電力福島第一原子力発電所の事故から一年、変化が起き始めている。原発依存から、脱原発への変化である。地震学者は、日本列島に太平洋プレートが沈み込んでいる、近いうちに巨大地震が起きると警告している。この地震津波大日本国で、同じレベルの原発事故がもう一回起きたら、その時は本当に日本沈没である。日本は脱原発へ舵を切るしかないのである。幸いなことに、日本は自然豊かな自然大国である。太陽光、風力、水力、地熱、自然エネルギーは十分ある。それらをもっと有効活用すればよい。四月に金沢で飯田哲也氏の講演を聞いた。映画「第四の革命」も観た。ドイツ、デンマーク、アメリカでの自然エネルギーの成功事例が紹介されていた。いくつになっても学ぶことは重要だ。六月十日には石川反核医師の会総会記念企画、被ばく証言を聴く会とナターシャ・グジー・コンサートもある。

医心凡語

今年、春も桜は咲いた。お花見を楽しむ人も多かったようだ。寒さが長引いたので、喜びは一層であったろう。わが家の庭にも、紫花大根の花が咲いている。東日本の被災地でも花が咲き、人の心を慰めているだろう。春は本当に素晴らしい。

石川県保険医協会 歯科学術講演会

口腔扁平上皮癌の悪性度に関する臨床ならびに基礎的研究

— 特に高悪性4D型癌の特徴について —

と き 2012年5月27日(日) 午前10時~12時

と ころ ホテル金沢 4階 風月の間

講 師 川尻 秀一氏

金沢大学大学院医学系研究科がん医科学専攻細胞浸潤学分野教授 (歯科口腔外科)

対 象 会員、会員医療機関のスタッフ(定員50人)

参加費 無料

持論

高齢者の住まい法が、二〇一一年十月に施行された。従来の「高齢者優良賃貸住宅」の条件を備えたサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)を整備しようというものである。

一方、そうした条件のない住宅型の有料老人ホームも雨後の筍のごとく増加している。本来、高齢者住宅整備の理念は、ケアと住まいがパッケージになった現状の施設が抱える諸問題を解決することにある。たとえば、社会で果たしてきた役割の消失、家族や友人さらにコミュニティとの関係の喪失・入所者同士の人間関係の軋轢、疎遠、孤独と不安、プライバシーと自立の喪失などである。その流れの中で住まいとケアを分離し、ケ

懸念される「在宅の施設化」

適切なケアと尊厳を守り 住み続ける権利の保障を

アは外付きにするという発想が生まれてきた。今から四半世紀前より北欧から始まった考えは、日本では理念が育つことなく、形だけまね

とする高齢者たちは、既存の介護保険の施設が満杯のため、このような形の住宅を施設代わりに入れて入居する。そこに入居するときは、ケアマネジャーの

れないばかりでなく、施設と同様の形態でありながら、パッケージ化がより貧弱な「施設もどきの住宅」と言わざるを得ない。

われわれは、本来ならこういった高齢者住宅はあくまで住宅なので、必要十分なケアが提供されることを前提に、高齢者の意思で住み続けることを保障するもので無くてはならないと考える。高齢者の人権を守るという基本的理念を忘れず、理想の住まい、さらにはそれを支える在宅医療、在宅ケアの在り方を問い続けていくつもりである。その意味で、在宅医療に関する医師は、適切なケアが提供されているか、患者の尊厳が守られているか、などの視点を常に持つことが必要と考える。

て突き進んでいる印象がある。ケアの外付きといっても、同じ建物の中に訪問介護と訪問看護の事業所が併存する形態では、施設と同じである。介護を必要

い。住まいとケアの分離がなされ

変更を求められることが多い。内部完結型であり、地域性もなし、施設でのマイナス面を改

締め切り迫る!

保険医年金

前半期受付期間 4月1日~5月25日

加 入 日 2012年9月1日

予 定 利 率 1.258%(2012年3月1日現在)

保険医年金の新規加入・増口をお考えの先生は、協会事務局までお問い合わせください。パンフレット等を送付させていただきます。

加入チャンスは年2回です!



納得のいかない返戻、査定は

『保険審査通信』

でお知らせください。

「保険審査通信」は、納得のいかない返戻や査定があった場合に会員医療機関からお知らせいただき、保険医協会が『石川保険医新聞』を通してコメントを掲載しています。会員医療機関におかれましては、不当あるいは納得できない返戻・査定の情報をお知らせください。FAXにてお送りください。

FAX 076(231)5156
E-mail ishikawa-hok@doc-net.or.jp

※保険審査通信は年に数回、会員医療機関に送付していますが、紛失した場合や追加が必要な場合は、保険医協会までご請求下さい。

2012年度石川県保険医協会 ゴルフ大会日程について

毎年秋に開催しています保険医協会のゴルフ大会の今年の日程が10月14日(日)に決定しました。場所や時間などの詳細については、次号または案内チラシでお知らせします。たくさんの会員・ご家族・スタッフのご参加をお待ちします。



囲碁解答

問題 8面にあります

黒1がこの場合の好手。白2は黒3、5でセキになり、黒生きで白4でコウ。また黒1で3は白5で黒4で黒死です。

将棋解答

問題 8面にあります

▲2 一歩成△同玉 ▲1 二金△同玉 ▲3 二飛成△2 二合▲1 三飛まで7手詰。
《解説》3 手目▲1 二金が好手です。△同飛なら▲3 一飛成です。△1 二同玉に▲3 二飛成で飛車を取り▲1 三飛でビタリです。

「数独」の解答

7+8で、答えは「15」 (問題 8面)

7	1	2	4	6	3	5	8	9
6	4	8	2	5	9	7	3	1
3	9	5	8	7	1	4	2	6
4	8	7	6	2	5	1	9	3
2	6	9	3	1	4	8	5	7
5	3	1	7	9	8	6	4	2
8	2	4	1	3	7	9	6	5
1	5	3	9	8	6	2	7	4
9	7	6	5	4	2	3	1	8

服部真理事の (金沢市・産業医療科)



第20回 公害: 2 大気汚染 (四日市ぜんそく、光化学スモッグ、道路粉じん、アスベスト)

大気汚染による公害は局所的な問題ではなく、全国の死亡率を左右する大きな問題で、石綿、粒子状物質などを含む規制を強化する必要があります。

四日市ぜんそく

日本で最初に認定された大気汚染公害です。一九六〇年に四日市市周辺の石油化学コンビナート(企業集団の意)が操業を開始したのち、亜硫酸ガスなどの硫酸化物を主成分とする有害化学物質が大量に排出され、近隣住民に咳・痰やぜんそくの症状を訴える人が多発し、死亡者も出ました。一九六四年に厚生省(当時)が疫学調査を行い、有症率と大気汚染の関係を立証し公害に認定しました。

水質汚染公害が日本海側や九州といった大都市圏以外で起きたのに対して、大気汚染公害は日本の工業化の中心である太平洋ベルト地帯で発生したという特徴があります。川崎市や阪神地区、岡山県水島市などのコンビナートでも同様の大気汚染と健康被害がありました。

当時、繊維産業から重化学工業への転換は最重要国策であり、その最前線であった四日市市の公害は「平和な時代の殺人」と呼ばれました。原因物質とその排出者が多く、責任企業の特定が困難で、特異的な被害がなく、症状の発生率の高低が問題となる事件でした。

四日市市は一九六五年から独自に公害患者の認定と医療費の補助を始めましたが、コンビナートの規模は拡大され、被害は一層拡大しました。一九六七年に民事訴訟が提起され、一九七二年に津地方裁判所

が石原産業、中部電力、昭和四日市石油、三菱油化、三菱化成工業など六社の共同不法行為を認め、賠償を命じました。コンビナートを誘致し公害防止対策の指導を怠ったとして、三重県や四日市市の責任も追及されました。同年、三重県公害防止条例でやっと硫酸化物の総量規制が始まり、一九七三年公害健康被害補償法が成立しました。

光化学スモッグ、排気ガス、スパイクタイヤ粉じん

ロンドンやロサンゼルスなど世界の大都市では以前から問題になっていましたが、日本でも一九六九年に初めて福岡で光化学スモッグ警報が発令され、一九七〇年七月に東京の校庭で生徒が目やのどの痛みを訴え、被害が確認されました。光化学スモッグは工場や車などから排出された窒素酸化物や炭化水素が紫外線でオゾンやアルデヒドなどのオキシダント(過酸化物質)となったものです。目、鼻、のどや呼吸器に炎症を起こします。

自動車の排気ガス規制としては、米国のマスキー法が有名ですが、日本では一九七三年から規制が始まりました。当初はガソリン車のみの規制でしたが、一九七九年からディーゼル車やLPG車も規制され、二〇〇〇年には特に基準が厳しくなったため、スポーツカーの生産中止

が相次ぎました。一九七〇年代には、スパイクタイヤによる道路粉じんも問題になりました。道路のアスファルトにも、アスベストが含まれていました。札幌市、仙台市、長野県などが先行して規制を始め、一九八八年には公害調停委員会を弁護士有志とタイヤメーカー七社が和解し、スパイクタイヤが原則禁止され、スタッドレスタイヤに代わりました。国の法律で規制されたのはその三年後の一九九一年です。

石綿(アスベスト)

石綿とは繊維状鉱物の総称で、日本では、ほぼ一〇〇%がカナダなど海外から輸入されています。石綿の発がん性は一九六四年には世界的に知られており、米国では一九七三年に製造物責任法ができた後に賠償訴訟が相次ぎ、世界最大のアスベストメーカー(マンビル社)が倒産しました。しかし、日本では二〇〇五年に原則禁止されるまで、約一千万トンが輸入・使用されました(ピークは一九七四年の三十五万トン、一九九九年までは毎年十万吨以上)。

石綿による健康被害は、がんと慢性肺病変(肺の線維化、胸膜炎、胸膜肥厚)です。中皮腫はアスベストに特異的ながんで、肺がんは関連が証明されています。喉頭がん、食道がん、胃がん、大腸がんも増えるという研究が多いですが、国は関連を認めません。胸膜肥厚は壁側胸膜に限局性に生じる胸膜プラークと胸膜炎に伴って臓側胸膜に生じるびまん性胸膜肥厚があります(詳しくは、『石川保険医新聞』二〇〇六年一月号参照)。

石綿の健康被害は主に石綿やその含有物を扱う労働者の業務上疾病(労災)で、日本の職業がんの八割が石綿がんです。しかし、二〇〇五年のクボタショックは、それに留まらず大気汚染として周辺住民の健康や命を奪うことを示しました。クボタは旧神崎工場で二〇一〇年までに従業員百七十七人、周辺住民二百二十五人が石綿疾病になったと発表しており、そのうち半数以上が死亡しています。

住民健診の胸部写真で石綿胸膜プラークが見つかる割合が、戦前に海軍工廠があり軍艦などを製造していた横須賀市(男性の三六%)やキューボラのある町で有名な埼玉県川口市(同一九%)で高いという報告があります(海老原原「粉塵が侵す」悠飛社二〇一一)。

全国規模の大気汚染による健康被害は、公害としては認定されていません。

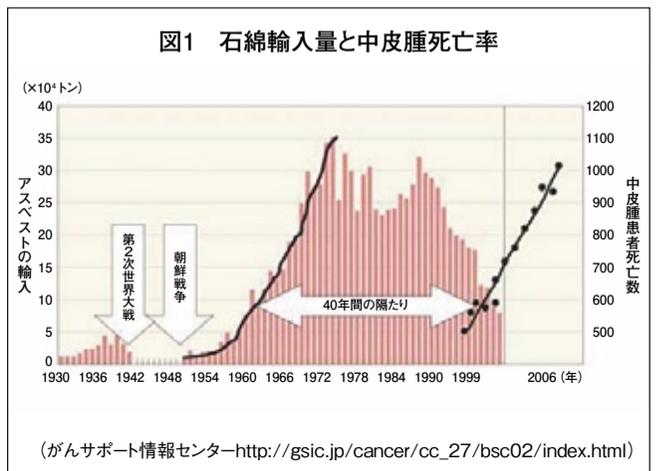
阪神大震災の際に倒壊したビルや解体されたビルから高濃度の石綿が周囲に飛散し、それによる中皮腫の発生も確認されていますが、その教訓が生かされず、東日本大震災後のビルの解体やがれき処理に伴う石綿の違法な飛散が相次いでいます。

石綿製品の販売禁止は一九七五年に青石綿(クロシドライト)、一九八六年に茶石綿(アモサイト)、一九九〇年白石綿(クリソタイル)一%以上、一九九六年同〇・一%以上と徐々に強化されましたが、輸入量の九〇%以上が現在も建築物の中に存在しています。

一九七〇年代の建造物の吹きつけ石綿が解体などによって大気中に排出されるピークは二〇一〇〜二〇二五年と推定され、飛散対策が徹底されないと、潜伏期を考慮して、地域住民の中皮腫や石綿肺がんは二十一世紀半ばまで増加する恐れがあります。

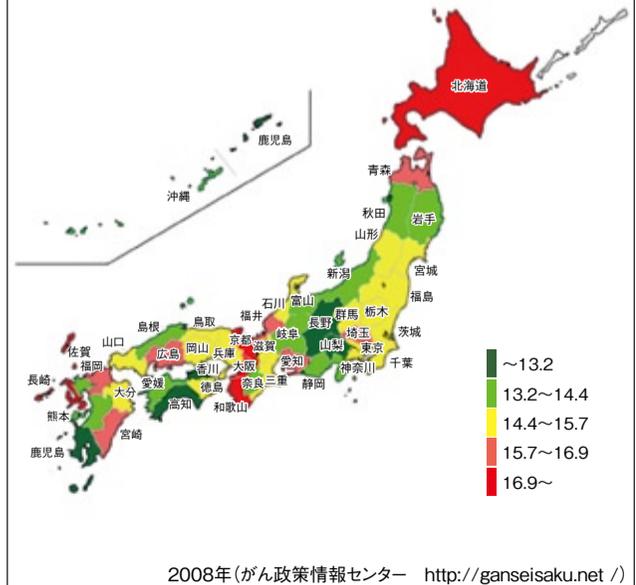
大気汚染防止法で硫酸化物、一酸化炭素、二酸化窒素、オキシダント、浮遊粒子状物質(SPM)の大気中濃度を常時監視し注意報や警報を発する監視制度がありますが、最も重要な石綿濃度を監視する制度はありません。カリフォルニア州では、タバコ煙

図1 石綿輸入量と中皮腫死亡率



(がんサポート情報センターhttp://gsic.jp/cancer/cc_27/bsc02/index.html)

図2 75歳未満年齢調整肺がん死亡率(人口10万対)



2008年(がん政策情報センター http://ganseisaku.net /)

も大気汚染物質として規制されています。先日、都道府県別年齢調整死亡率が発表され、男女とも長野県が最低でした。長野県は輸血や血液製剤によるC型肝炎と肝がんが少ないことに加え、石綿などの大気汚染が少ないために肺がん死亡率が低いことが大きな特徴です。SPMの大気汚染が脳梗塞や認知機能低下のリスクとなるという研究もあります(Arch Intern Med 2012; 172:219-236)。

投稿

ベトナム旅行に参加して

小林 浩子

(金沢市・江守歯科医院の歯科技工士)

二月中旬、第九回江守歯科海外慰安旅行で、初めてベトナムへ行ってきまして。

翌朝、ホテル周辺の路上に食材を並べて行商している庶民の姿などを垣間見ながら、ベトナム戦争で勝利をもたらし要因の一つ、有名なクチトンネル観光へ出かけました。ベトナム戦争では、全世界の三分の一の爆弾が使用され、圧倒的な軍事力を誇る米軍に抵抗するため、クチゲリラは、二十年間粘り強く土地を手掘りし、一階は生活空間、二階は隠れやすいよう

に△型した寝室、休憩室、三階は逃げ道になっていたそうです。また、昼は戦い、夜は農作業、銃と鋏を持ち戦争をしていたことでも有名です。その、アメリカ軍の行動を読み取り、先手を打つ頭脳的な戦術は、驚嘆に値すると思えました。当時のベトナムの人々が、どれほど恒久的な幸福、独立平和を願っていたか、また、解放を勝ち取るための戦いがどれほど苦しいものだったかを知ることができました。

午後からは、市内を散策しました。ドンコイ通り、市民劇場、聖母マリア教会、中央郵便局とめぐり、夕食は、以前ベトナムに滞在していた院長の娘さん推薦の情緒あふれるベトナム料理店でいただきました。おしゃべりをしながら、おいしい料理でお腹を満たし、帰りにベトナムを代表する伝統芸能、水上人形劇を観覧。言葉は分からなくとも、ベトナムの人々の暮らしをユーモアたっぷりに伝えるものでした。二日目は、メコン川下り。ミトーの中洲にある島で、ハチミツ茶をいただきながら、大嫌いなニシキヘビと、勢いで記念撮影。その後、ニッパヤシが生

今回、この地に足を踏み入れ、改めてベトナムに興味を持ち、戦争について考え、自分が今生きていることは、大きな代償と引き換えなのだという事に気が付かされました。

い茂る中、ベトナムのステッキを振り、手漕ぎ舟でジャングルクルーズを体験。夜は、皆が楽しみにしていた全身マツサージで、ローズ・セラピーを約三時間かけてゆつくりと満喫し、全員が裸の付き合いで、バラ風呂で互いの顔を見つめ合い、旅の疲れを癒しました。最終日は自由行動で、院長お薦めの戦争証跡博物館に向かいました。ベトナム戦争の資料、展示品など、たくさんの方に触れ、本当に心が痛みました。被爆国日本も同じ痛みを受けています。戦争の傷を抱えながら、明るく、発展していこうと頑張っている人々のパワーを感じる旅行でした。このような機会を与えて下さった、院長に感謝致します。ありがとうございます。



聖母マリア教会をバックに、スタッフみんなで記念撮影 (前列右から2番目が江守道子院長で、後列一番左が筆者)

多量な交通量が多い通りでも、信号や横断



メコン川をクルーズ (左から2番目が筆者)

被ばく証言を聴く会と

ウクライナの歌姫

ナターシャ・グジー コンサート

第25回石川反核医師の会総会記念企画
Nuclear Abolition Day
第3回核兵器廃絶国際行動デー



撮影：広河隆一

予定曲目 キエフの鳥の歌、いつも何度でも秋桜 (コスモス)、アヴェマリア ほか

2012年6月10日(日)
午後2時~4時 (開場1時)

石川県教育会館 3F ホール
金沢市香林坊 1-2-40 / TEL076-222-1241

*大人/2,000円 *中高生/500円

◇ナターシャ・グジー (歌手・バンドゥーラ奏者)

ウクライナ生まれ。ナターシャ6歳のとき、1986年4月26日未明に父親が勤務していたチェルノブイリ原発で爆発事故が発生し、原発からわずか3.5キロで被曝した。その後、避難生活で各地を転々とし、キエフ市に移住する。ウクライナの民族楽器バンドゥーラの音色に魅せられ、8歳の頃より音楽学校で専門課程に学ぶ。

1996年・98年救済団体の招きで民族音楽団のメンバーとして2度来日し、全国で救済公演を行う。2000年より日本語学校で学びながら日本での本格的な音楽活動を開始。その美しく透明な水晶の歌声と哀愁を帯びたバンドゥーラの可憐な響きは、日本で多くの人々を魅了している。2005年7月、ウクライナ大統領訪日の際、首相官邸での夕食会に招待され、演奏を披露。

コンサート、ライブ活動に加え、音楽教室、学校での国際理解教室やテレビ・ラジオなど多方面で活躍しており、その活動は高校教科書にも取り上げられている。

公式ホームページ: <http://www.office-zirka.com/>

反核医師の会では現在、石川県内の小中学校に漫画「はだしのゲン」を寄贈する運動に取り組んでいます。チケットの収益金は、「はだしのゲン寄贈募金」としてつかわせていただきます。

この催しは、地球上のすべての命を守り、子どもたちに豊かな地球を引き継ぐため
核兵器禁止条約の制定をめざすことを目的に企画しています

主催/問合せ先: 核戦争を防止する石川医師の会 (略称 石川反核医師の会)

<http://ippnw-ishikawa.jp/>

〒920-0902 石川県金沢市尾張町 2-8-23 太陽生命金沢ビル 8階 石川県保険医協会内
TEL 076 (222) 5373 FAX 076 (231) 5156

新刊案内

住み続ける権利

「貧困、震災をこえて」

紹介者 齊藤 典才 (金沢市・外科)

著者の井上英夫先生は、金沢大学地域創造学類・人間社会環境科学研究所教授であり、ハンセン病問題や、生存権裁判をはじめ数多くの「人権を守る者」としての研究、活動をされてこられました。石川県保険医協会においても「社会保障セミナー」という企画を通じて、私たち医療者に「患者の人権、健康権のな

ることはないのではないのでしょうか。井上先生は、住み続ける権利が脅かされるものとして、震災と貧困を挙げています。二〇〇七年三月に起きた能登半島地震の復旧・復興に、研究者として深くかかわってこられました。先生は、「地震は平等だが、震災は不平等」と言います。つまり、地震は平等に起きるけれども、その被害は不平等に現れるということです。たとえば、古い家は倒壊してしまうが新しい家は倒壊しないとか、高齢者や障害者を持っている人に、より甚大な被害が起きやすいということですが、

化した町ほど大きな被害を受けやすい。過疎化という現象の背景には、国や自治体の行う政策の影響があると指摘します。かつての高度経済成長期にみられた労働力の大都市への移動や、市町村合併などがそうです。そして、そのような脆弱な地域が被害を受けると、住民は住んでいた町に戻れなくなり、二〇〇八年中国の四川で起きた大地震では、大規模な土石流のため、今も約五千人が行方不明になっているそうです。先生はその地を訪れ、住民に聞きます。住民は平地にできた新しい街に移り住んでいます。が、そこで暮らす人々は、やることなく困っている

といます。もともとは田畑を耕したりヤギを飼っていたのですが、新しく用意された「立派な」街では、そのようなことができないのです。「生活とは何か、どういうことが人間らしい生活なのか、それを社会全体で制度として保障することとはどういうことなのか」をあらためて考え直さなければならない、と先生は指摘します。

貧困も、住み続ける権利を奪います。もちろんホームレス問題は端的な例ですが、先生は二〇〇六年に発生した北九州市餓死事件を調査しました。死亡された方は貧困によって生活が続けられなくなり、二度にわたって自ら行政に生活保護の申請をしましたが、いざずれも断られたそうです。これは政策の貧困がもたらした事例です。また、二〇〇九年に群馬県で起きた「静養ホーム」たまたま火災事件の犠牲者は、国の貧弱な介護保険制度や営利化政策によって、住み慣れた東京都墨田区から仕方なしに群馬県へ移り住まねば生

きていけなかった生活保護の方々でした。地方行政組織の無責任さが、明らかとなった事例です。近年の日本の政策は、ますます新自由主義政策に傾き、国の責任を後退させ、地域や個人に責任を負わせようとしています。憲法二五条を今一度見てみると、「一項・すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」「二項・国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と、国の役割、責任について規定しています。井上先生は、最低生活が動物的生存や「ギリギリの緊急的生存」であってはならず、「健康で文化的」な水準でなければならぬ。さらに国は、「最低限度」の生活水準を常に引き上げ、向上させ、「十分」な生活、さらには「最高水準」の健康を保障する義務があると主張します。

この著書は、「住み続ける権利」という基本的な権利が、いかに踏みこられてきたのかという事例を通して、国のあるべき政策とは何なのか、「住み続ける権利」が守られる社会とはどんなものなのか、を深く考えさせるものだと思います。ぜひ、みなさんに読んでいただきたい

さて、この著書では「住み続ける権利」という耳慣れない言葉がタイトルとなるっています。私たちは「住み続ける」ということは当たり前のこととして、普段はあまり考え

地域性も重要で、過疎

化した町ほど大きな被害を受けやすい。過疎化という現象の背景には、国や自治体の行う政策の影響があると指摘します。

かつての高度経済成長期にみられた労働力の大都市への移動や、市町村合併などがそうです。そして、そのような脆弱な地域が被害を受けると、住民は住んでいた町に戻れなくなり、二〇〇八年中国の四川で起きた大地震では、大規模な土石流のため、今も約五千人が行方不明になっている

そうです。先生はその地を訪れ、住民に聞きます。住民は平地にできた新しい街に移り住んでいます。が、そこで暮らす人々は、やることなく困っている

といます。もともとは田畑を耕したりヤギを飼っていたのですが、新しく用意された「立派な」街では、そのようなことができないのです。「生活とは何か、どういうことが人間らしい生活なのか、それを社会全体で制度として保障することとはどういうことなのか」をあらためて考え直さなければならない、と先生は指摘します。

貧困も、住み続ける権利を奪います。もちろんホームレス問題は端的な例ですが、先生は二〇〇六年に発生した北九州市餓死事件を調査しました。死亡された方は貧困によって生活が続けられなくなり、二度にわたって自ら行政に生活保護の申請をしましたが、いざずれも断られたそうです。これは政策の貧困がもたらした事例です。また、二〇〇九年に群馬県で起きた「静養ホーム」たまたま火災事件の犠牲者は、国の貧弱な介護保険制度や営利化政策によって、住み慣れた東京都墨田区から仕方なしに群馬県へ移り住まねば生

きていけなかった生活保護の方々でした。地方行政組織の無責任さが、明らかとなった事例です。近年の日本の政策は、ますます新自由主義政策に傾き、国の責任を後退させ、地域や個人に責任を負わせようとしています。憲法二五条を今一度見てみると、「一項・すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」「二項・国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と、国の役割、責任について規定しています。井上先生は、最低生活が動物的生存や「ギリギリの緊急的生存」であってはならず、「健康で文化的」な水準でなければならぬ。さらに国は、「最低限度」の生活水準を常に引き上げ、向上させ、「十分」な生活、さらには「最高水準」の健康を保障する義務があると主張します。

この著書は、「住み続ける権利」という基本的な権利が、いかに踏みこられてきたのかという事例を通して、国のあるべき政策とは何なのか、「住み続ける権利」が守られる社会とはどんなものなのか、を深く考えさせるものだと思います。ぜひ、みなさんに読んでいただきたい



住み続ける権利 — 貧困、震災をこえて
●井上 英夫 (著) ●価格: 1,575円
●単行本: 214ページ ●出版社: 新日本出版社
●発売日: 2012年3月
※お求めは、アマゾンなどのネットでお買い求めください。

化した町ほど大きな被害を受けやすい。過疎化という現象の背景には、国や自治体の行う政策の影響があると指摘します。

かつての高度経済成長期にみられた労働力の大都市への移動や、市町村合併などがそうです。そして、そのような脆弱な地域が被害を受けると、住民は住んでいた町に戻れなくなり、二〇〇八年中国の四川で起きた大地震では、大規模な土石流のため、今も約五千人が行方不明になっている

そうです。先生はその地を訪れ、住民に聞きます。住民は平地にできた新しい街に移り住んでいます。が、そこで暮らす人々は、やることなく困っている

といます。もともとは田畑を耕したりヤギを飼っていたのですが、新しく用意された「立派な」街では、そのようなことができないのです。「生活とは何か、どういうことが人間らしい生活なのか、それを社会全体で制度として保障することとはどういうことなのか」をあらためて考え直さなければならない、と先生は指摘します。

貧困も、住み続ける権利を奪います。もちろんホームレス問題は端的な例ですが、先生は二〇〇六年に発生した北九州市餓死事件を調査しました。死亡された方は貧困によって生活が続けられなくなり、二度にわたって自ら行政に生活保護の申請をしましたが、いざずれも断られたそうです。これは政策の貧困がもたらした事例です。また、二〇〇九年に群馬県で起きた「静養ホーム」たまたま火災事件の犠牲者は、国の貧弱な介護保険制度や営利化政策によって、住み慣れた東京都墨田区から仕方なしに群馬県へ移り住まねば生

きていけなかった生活保護の方々でした。地方行政組織の無責任さが、明らかとなった事例です。近年の日本の政策は、ますます新自由主義政策に傾き、国の責任を後退させ、地域や個人に責任を負わせようとしています。憲法二五条を今一度見てみると、「一項・すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」「二項・国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と、国の役割、責任について規定しています。井上先生は、最低生活が動物的生存や「ギリギリの緊急的生存」であってはならず、「健康で文化的」な水準でなければならぬ。さらに国は、「最低限度」の生活水準を常に引き上げ、向上させ、「十分」な生活、さらには「最高水準」の健康を保障する義務があると主張します。

第27回保団連医療研究集会

絆—いのちを見つめて

分科会・ポスターセッション
演題募集中
5月31日応募締切
お申し込みは石川県保険医協会まで
(076-222-5373)

第27回医療研究集会では、多くの尊いいのちを失った大震災に思いを馳せ、これからの被災地、とりわけ地域医療の復興再生と原発事故からの安全確保を見据え、第一線医療で患者・国民のいのちと健康を守る医師・歯科医師として、果たすべき役割を改めて見つめ直す機会としたいと存じます。全国から多数の参加をお願い致します。

●日時:
2012年10月13日(土) 18:00~21:30
10月14日(日) 9:00~15:30
●会場:
東京・都市センターホテル
東京都千代田区平河町2-4-1
TEL 03-3265-8211

10月13日(土) 18:00~21:30
全体集会 18:00~19:50
○主催者挨拶
○基調講演
○記念講演
「この国をあきらめない—3.11後の日本」(仮題)
立教大学教授・精神科医 香山 リカ氏
レセプション 20:00~21:30

10月13日(土)・10月14日(日) 両日企画
○保険医写真展・入選作展示
○「戦争と医の倫理」の検証を進める会・パネル展示

10月14日(日) 9:00~15:30
分科会 9:00~12:00
①在宅医療・介護
②医科診療の研究と工夫
③歯科診療の研究と工夫
④医科歯科連携した研究と日常診療の工夫
⑤公害、環境、職業病
⑥医学史、医療運動史、医療と裁判
ポスターセッション 9:00~15:00
シンポジウム 13:00~15:30
①診察室から見える格差と貧困
②医科歯科におけるヒヤリ・ハットの現状と取り組み
市民公開シンポジウム 13:00~15:30
放射線被曝から子どもたちの健康を守るために
—水俣の教訓を生かして
全国共同調査
歯科診療所におけるヒヤリ・ハットに関する実態調査

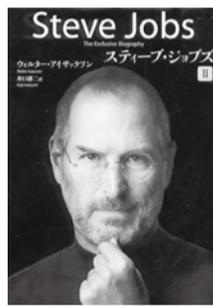
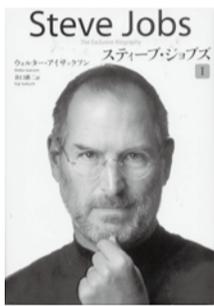
複眼的に思索する 読書教室 その34

○テーマ— ネットの巨人達 ～スティーブ・ジョブズ、マーク・ザッカーバーグそして孫正義～

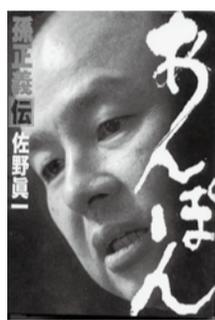
喜多 徹 (野々市市・内科)

アップルの新型 iPad は、販売絶好調。フェイスブックは加入者が8億人を超え、近く上場予定とのこと。ソフトバンクの iPhone4S も大人気だ。今回は今注目の IT 企業の創業者である、スティーブ・ジョブズ、マーク・ザッカーバーグ、孫正義を取り上げ、その人物像、足跡を論じる。

【読んだ本】



【1】スティーブ・ジョブズ I、II
●著者：ウォルター・アイザックソン (著)、井口耕二 (訳)
●出版：講談社 (2011年11月刊)



【2】フェイスブック 若き天才の野望
●著者：デビッド・カークパトリック (著)、高橋信夫 (訳)、滑川海彦 (訳)
●出版：日経BP社 (2011年1月刊)

【3】あんばん 孫正義伝
●著者：佐野真一
●出版：小学館 (2012年1月刊)

1. スティーブ・ジョブズ I、II

劇的な、スティーブの死から半年、彼については本書のほかに、多くのメディアなどに追悼、評論などが食傷気味になるほど発表された。そこで独自の視点で述べてみたい。

一つは、彼がアスペルガー症候群 (高機能自閉症) ではなかったのではないかという指摘。確かに極端なこだわり、他人への思いやりの欠如、コミュニケーションの不器用さなどは矛盾しない。一方でその繊細で一徹な感情が、自分自身を苦しめている点も同様である。その研ぎ澄まされた発想力から、科学の発展や商品開発にブレイクスルーをもたらすこともあるという。IT 業界では、ビルゲイツもこのタイプの人間と言われている (詳しいことは、幻冬舎新書「アスペルガー症候群」など参照)。また、生後すぐ里子に出された家庭環境もその人格形成に影響を及ぼしているのだろう。

アップルが創業間もないころに発売した PC、マッキントッシュ (Mac) に話題を移す。Mac は、スティーブが精魂こめて開発した PC だが、1979年ゼロックスのパロアルト研究所訪問時、見学したマシンに搭載された GUI (グラフィカル・ユーザー・インターフェイス) とマウスを見て、開発中の Mac に搭載することをひらめいた。当時 PC はコマンドラインからのキーボード入力が普通であった。開発元のゼロックスは、コンピュータは企業で使われるもので、個人向けという発想がなかった。つまり彼は発明ではないものを商品とし具現化する発想力・集中力には非凡なものがあるエピソードである。

ともあれ、緻密な取材に基づいた豊富な内容に圧倒される作品で、極端な自己中心性とカリスマ性を持つ人間ジョブズを綴っている。ジョブズはきっと、ジョン・レノンやアイルトン・セナのように伝説化されると思う。

2. フェイスブック 若き天才の野望

今や世界で8億人のユーザーがいるとされ、近々上場され億万長者が続出すると言われる話題のソーシャルネットワークサービス「フェイスブック」。その創立者で CEO のマーク・ザッカーバーグの実像を描いた一冊。原題は「The facebook Effect」。フェイスブックの社会的影響を考えると意味がある。

米国の大学では、入学すると学生の顔写真とプロフィールを載せた『フェイスブック』という学生名鑑のようなものを学生に配布し、それを見て学生が友人や恋人作りに励むと言う習慣があるそうで、当時ハーバード大学学生のザッカーバーグがその電子版を作り、瞬く間に同大学から全米の大学、高校へ、そして誰でも加入できるようになり、全世界に広がった。今では、グーグルを脅かすほどの巨大な存在になろうとしている。本書はザッカーバーグ自身から直接取材する一方、創立時のメンバー、大学内外の友人・関係者、IT 業界の親交者、フェイスブックへの投資家などの人間模様を綿密な取材を通して描いている。

ザッカーバーグが貫いた信念、それは「透明性のあるコミュニケーションの場を作ろう」ということで、今や個人のプライバシーという概念すら大きく変えようとしている。彼はフェイスブックを金儲けの手段として考えなかった。一般に米国のベンチャーは、ユーチューブや、スカイプのようにある程度成功すると大手企業に会社を売って儲けるのが常識だが、彼はヤフー、マイクロソフト、グーグルなど多くの企業からの買収提案を断固拒否したのである。

フェイスブックを扱ったもう一冊に、映画「ソーシャルネットワーク」の原作となったベン・メズリックの「facebook」がある。こちらは読んでいないが映画は見た。ザッカーバーグに直接取材せず、彼のライバルたちから取材したものだが、ザッカーバーグ自身は「服装以外は嘘」と言っている。しかし娯楽映画としてはたいへんおもしろく、こちらも鑑賞をお勧めする。

さて、皆様は facebook に加入されたか? 爆発的な会員増加といっても、ここまで生身の自分を晒すのに、どうしても抵抗を覚え躊躇してしまう。

3. あんばん 孫正義伝

この本、孫正義の伝記ではない。中国から朝鮮そして日本に繋がる、正義で25代となる孫家のルーツを探るノンフィクションであり、彼の半生を家族の愛憎関係なども赤裸々に、作者の佐野が九州、朝鮮を何度も訪問し、丹念な取材によって明らかにしたものである。特に彼の父親、安本三憲の破天荒な生き方にとっても興味を覚える。孫は鳥栖市無番地の朝鮮部落の生まれ、養豚と密売酒の悪臭と、朝鮮人に対する激しい差別と偏見の中で育つ。やがて一家は北九州に移住し、金融、パチンコ業に進出。三憲は一時は九州のパチンコ王と言われたくらいだったという。しかしこの父の姉弟とのお金を巡る流血の争い、愛情と憎悪があやなす人間模様は、日本人には理解しがたいところだ。

孫自身は幼少より早熟、秀才と言われ日本の高校を中退して渡米、カルフォルニア大学を卒業。学生時代からコンピューター関連事業を起こす。帰国後ソフトバンクを創業するが、その後の輝かしい業績については、本書は「おまけ」のようなもので主題は、あくまで孫一族三代の波瀾万丈の記録である。毀誉褒貶 (きよほうへん) の激しい孫であるが、底なしの事業欲、大震災・原発事故の際の行動力、再生エネルギーにかける情熱は、称賛と同時に胡散臭さも感じるところだ。

最後に孫の気持ちを忖度 (そんたく) する事実を一つ紹介する。日本人と結婚後、1990年に日本姓の「安本」を名乗らず、25代続く「孫」を名乗って日本国籍を取得した。日本をこよなく愛する感情と中国・朝鮮から繋がる血統に対する誇りの中で葛藤する、人間「孫正義」の複雑な感情を垣間見る思いがする。

現代の寵児となった3人の伝記を紹介した。

今回取り上げた3作。日米でベストセラーになり、どれを読んでもおもしろい。とにかく彼らの存在感は抜群、社会的インパクトも絶大である。ジョブズとザッカーバーグについては、若い才能を生かせる米国社会のダイナミズムに脱帽する。一方孫は、日本の閉塞感漂う社会に風穴をこじ空けるパワーを感じる。自由主義・競争社会で彼らは「偉大な勝者」であるが、一方、企業はいつまでも「絶好調」であることは絶対ない。いずれにしても、ジョブズ亡き後のアップル、フェイスブック、孫の率いるソフトバンクの今後の動向には目が離せない。

